

---

# 幼馴染と色眼鏡。

gak

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

幼馴染と色眼鏡。

### 【Nコード】

N8889M

### 【作者名】

gak

### 【あらすじ】

幼馴染だからと言って、知っているとは限らない。

美海<sup>みか</sup>の胸が、規則正しく上下している。

穏やかな昼下がり、部屋のソファに身を預けて、彼女はすやすやと眠っていた。「ちょっと眠たいから」と言っ、男の家で安心して寝てしまふ美海が、俺の目の前にいる。細い首にかかる黒髪、穏やかな光に照らされた幼い表情。唇はゆるく閉じられており、時おり寝息が聞こえてくる。無防備すぎる彼女を横目に俺はコーヒーをすすりながら、シヨパンのエチュードを聴いていた。

今日美海が俺の家にいるのは、なんでもない、彼女がただ暇だったから。家族ぐるみの付き合いがこれ十五年ほど続いている俺たちは、兄妹のような関係だった。社会人にもなつて美海もよくこんなことするなとも思うのだが、そんな彼女を拒むことは出来ない。美海という時の安心感、それは恋愛などでは感じられない、もつと心の深いところでの繋がりなのだと思う。幼馴染から恋に発展するなんていう安い小説をよく聞くけれど、俺と美海に限ってそんなことは絶対にないとずっと信じていた。

俺の唇から、自然と笑みがこぼれる。こんな関係だっていいじゃん。二人でいるときに友人たちに「そういう目」で見られるとき、俺はいつもそう思っている。どうして男と女が一組いれば、デートしたりキスしたりしないといけないのだろう。人の気持ちを、どうして漢字一文字で表さなければならぬのだろう。

そんなことを思つて、俺はちらつと美海を見た。綺麗に整った顔立ちを見ると、成程美海が男性にかなり人気があるのも頷ける。薄めの化粧はどこか大人びた雰囲気醸し出し、男の注目の的になる

のは当然だろう。しかし、俺の前では小学生の頃の、男勝りの彼女となんら変わらない。少しでも気に入らないことがあると、拗ねて口をきいてくれなくなる。寂しがりだが、そのくせ深くつけこまれることを嫌がったりする。確かに可愛いやつではあるが、彼女をよく知っている人間から見れば、美海も単なるわがままなじゃじゃ馬に過ぎないのだ。

そんな俺も普段の美海のことを、俺は知らない。色々な噂から察するに、口数が少なく大人しい、上品な女の子であるらしい。さつき無理でもしているのかと問い詰めたら、誰にも色々な顔があるものでしょ、と一蹴されてしまった。長い付き合いだからと言って、全てわかっているとは限らないわ、と。

どうしたのだろう。俺は少し悲しくなった。小さい頃から知っているっていうことを理由に、今の美海を見ていなかったのかもそう、気づかされた気がした。過去の彼女という色眼鏡が、今の姿を屈折させているのではないか。：そいえば、最近の美海のことを、俺は何も知らない。もう一度見つめたとき、彼女はまだ幼いままで俺の中に映るのだろうか。

美海の胸は、規則正しく上下している。俺が色眼鏡をはずせばどうなるのだろう。ふっとそんなことを思った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8889m/>

---

幼馴染と色眼鏡。

2010年11月12日04時34分発行